

ALA/AASL 学校図書館員養成教育に関する基準(2010)： 2010 年 10 月 24 日教員養成課程認定評議会専門分野研究委員会承認

柳 勝文訳

「ALA/AASL 学校図書館員養成教育に関する基準」は高校までのあらゆる教育現場の図書館・情報サービスを作りあげて管理する候補者を養成する修士課程すべてに対して、修士号の名称や職名に関わりなく適用される。「学校図書館員」が、アメリカ・スクール・ライブラリアン協会 (AASL) とアメリカ図書館協会 (ALA) の認める公式の名称である。ほかには、「学校図書館メディア・スペシャリスト」「司書教諭」「図書館情報スペシャリスト」「メディア・コーディネータ」などがある。

基準 1： 学びのための教授

候補者は効果的な教員であり、学習者や学びが分かっていることを実践して示すことができ、協働して計画したりマルチプル・リテラシーを教えたり探究学習をしたりすることのモデルを示したり推進したりことができ、学びの共同体の人々がアイデアや情報を使ったり生みだしたりできるようにする。候補者は生徒を引きつける指導を立案して実践し、探究したり批判的に考えたり知識を得たり共有したりする生徒の能力を向上させる。

構成要素

1.1 学習者や学びが分かっていること

候補者は学びの諸様式や成長・発達段階、学びにおける文化的影響に精通している。候補者は学習者が必要とするものを点検して、最良の教育実践例を反映した指導を立案する。候補者は生徒や学びの共同体の人々すべてを支援するが、そこには学びの様式や身体的・知的特別支援において多様な人々が含まれる。候

補者は 21 世紀に必要なスキルを教えるときに生徒の興味や必要とする学びに結びつけ、生徒の達成度を点検するときにもそのスキルと関連づける。

1.2 効果的で博識な教員

候補者は効果的な教授と学びの原則を実践して、活発で探究に基づく学びに貢献する。候補者は教科教員等と連携して、一連の指導戦略と点検ツールを利用してデジタル時代の学びの経験と点検を立案・展開する。候補者は、協働に基づく指導が生徒の成果に効果的であることを文書にして伝えることができる。

1.3 指導パートナー

候補者は教員と協働するパートナーとして、効果的な教授と学びの原則の事例を示し、共有して、推進する。候補者は図書館や情報活用と関連する場合に、カリキュラム作成に参加したり学校改善過程に取り組んだり教員の研修をしたりすることの重要性を認識している。

1.4 21 世紀に必要なスキルと学びの基準との統合

候補者は 21 世紀に必要なリテラシーを支持して、学校関係者が必要とする学びを支援する。候補者は教員との協働に基づく指導法を計画・実践する方法を示すが、指導内容は AASL『21 世紀の学習者のための基準』と州のカリキュラム基準に基づくものである。候補者は現れつつある機器類を効果的に創造的な教授のための道具として使うことと、高校生までの概念の理解の仕方や批判的思考、創造する過程とを統合する。

基準 1 の点検項目表

容認できない水準

次のことを候補者ができることを示す証拠が点検によって全然あるいはほとんど確認できない。

- AASL『21 世紀の学習者のための基準』に基づく学習者や学び、指導戦略や情報資源について理解していることを実践して示す
- 専門職と協働して、カリキュラム内容と研修の両方か一方を支援する

容認できる水準

候補者が次のことをできることが少なくとも 1 つ、点検の証拠として示される。

- 教育関係者と協働して指導法を立案することで学習者や学びについて理解していることを示すが、その指導法は生徒すべての学習様式やニーズ、関心や能

This document is translated and published with permission by the American Association of School Librarians (AASL). Any further distribution or publication of this translation requires permission by the AASL (aasl@ala.org).

力を支援するものである

- ・指導したり点検したりするときにさまざまな指導戦略や情報資源を活用することで、高校生までのマルチプル・リテラシーを育成して向上させる
- ・図書館や情報利用に関する専門職としての研修活動を確保して参加することで、すべての学びの共同体の人々がアイデアや情報を効果的に使えるようにする
- ・指導するときに、現れつつあるテクノロジーを活用することで、生徒の成果を高める AASL『21世紀の学習者のための基準』に示されたスキルや資質、責任や自己点検と、州の基準を推進する

目標とすべき水準

複数の点検で、候補者が次のことをできる証拠が示される。

- ・探究に基づく情報リテラシー指導を立案して実践することで、学習者や学びを理解しているモデルを示して推進して、高校生までの情報・メディア・ビジュアル・テクニカル・リテラシーを向上させる
- ・新たな機器類を様々な指導戦略に統合して、多様な学習様式や関心、能力を持つ生徒すべてが探究したり、批判的に考えたり、知識を創造したりできるようにする
- ・教育者や関係者と協働して、生徒の成果を高めるカリキュラム作成や学校の改善過程など研修活動に取り組む

基準1に関連する研究

基準1は、学校図書館員候補者の探究学習を推進したり、マルチプル・リテラシーを指導したり、多様な学びの共同体のニーズに応える教授をしたりする能力に焦点を当てている。指導を差別化することは挑戦することであり学校図書館員にとって大切であるのは、生徒すべてに一年以上にわたって影響することも少なくないからである。Kacha(2009)が言及するのは、文化や能力にかかわらず学校図書館員がすべての生徒にあわせて指導するために独特の挑戦をすることである。Mestre(2009)が賛同するのは、文化や能力で様々な生徒のリテラシーのニーズに対応することが学校図書館員に委ねられていることである。

候補者は探究学習の手法を実践する必要がある。

Chuの研究(2009)では、総合学習や国語、情報技術の教員が協働する探究学習の方が成績も良く学びを向上させることが文献で裏付けられた。Hoover(2006)は、学校図書館員には4つの主要な職務(教師、教授指導のパートナー、情報の専門家、プログラム管理者)があるという事実を考察した。効果的な指導戦略やクラス管理戦略、学校でリーダーシップを発揮する責任を明らかにするメタ分析によって、内陸部教育学習研究所(McREL)の研究者が見つけたのは、学校図書館員が教科教員と同じくらい指導戦略に精通する必要があるということである。(Marzano, Pickering, & Pollock, 2001)

協働は長い間、学校図書館員教育のスローガンであり、候補者にとっては挑戦することであり続けている。Bell and Kuon(2009)は、オンライン授業で協働について教えることを考察した。その結果分かったのは、一人でコンピュータ端末一台しかない場合でも協働が重要であることである。Kuhlthau, Maniotes and Caspari(2007)の発表では、情報リテラシーを向上させる大胆で革新的な手法として「誘導探究」について見直すことを議論し、教授指導チームの一人ひとりが持つ協働に対する責務について考察した。Stripling(2008)が強調したのは、探究に基づく教授指導によって時間が多めにかかるとしても、学びの共同体と効果的に連絡を取り合っ、探究することができるようリーシップを発揮する必要が学校図書館員にはあるということである。

要するに、情報検索や情報伝達、情報デザインは変わり続けている(Warlick, 2009)。学校図書館員の候補者は21世紀の基準やツール類を受け入れなければならない。インターネットによって社会環境が大胆に進化していくなかで、学校図書館員はソーシャル・メディアを使って、管理職や教科教員と課題について議論したりパートナーシップを構築したりするだけでなく(Lamb & Johnson, 2008)、教授や学びに影響しなければならない(Naslund & Giustini, 2008)。ブログやウィキ類、ソーシャル・メディアを教授指導のときに使うことで、探究することを学んだり情報を共有して批判的に考えたりすることを学ぶ生徒を引きつけることになるのである。

参考文献

This document is translated and published with permission by the American Association of School Librarians (AASL). Any further distribution or publication of this translation requires permission by the AASL (aasl@ala.org).

- American Association of School Librarians (AASL) (2007). *Standards for the 21st-Century Learner*. Chicago: Author.
- Bell, M., & Kuon, T. (2009). Home alone! Still collaborating. *Knowledge Quest*, 37(4), 52-55.
- Chu, K. (2009). Inquiry project-based learning with a partnership of three types of teachers and the school librarian. *Journal of the American Society for Information Science and Technology*, 60(8), 1671.
- Hoover, C. (2006). Research based instructional strategies. *School Library Media Activities Monthly*, 22(8), 26-28.
- Kachka, A. (2009). Differentiating instruction in the library media center. *School Library Media Activities Monthly*, 25(5), 20-21.
- Kuhlthau, C. C., Maniotes, L. K., & Caspari, A. K. (2007). *Guided inquiry: Learning in the 21st century school*. Westport, CT: Libraries Unlimited.
- Lamb, A., & Johnson, L. (2008). School library media specialist 2.0: A dynamic collaborator, teacher, and technologist. *Teacher Librarian*, 36(2), 74-78,84.
- Marzano, R. J., Pickering, D. J., & Pollock, J. E. (2001). *Classroom instruction that works: Research-based strategies for increasing student achievement*. Alexandria, VA: Association for Supervision and Curriculum Development.
- Mestre, L. (2009). Culturally responsive instruction for teacher-librarians. *Teacher Librarian*, 36(3), 8-12.
- Naslund, J., & Giustini, D. (2008). Towards school library 2.0: An introduction to social software tools for teacher librarians. *School Libraries Worldwide*, 14(2), 55-67.
- Stripling, B. (2008). Inquiry-based teaching and learning – the role of the library media specialist. *School Library Media Activities Monthly*, 25(1), 2.
- Warlick, D. (2008). *Redefining literacy*. Worthington, OH: Linworth Press.

基準 2 : リテラシーと読書

候補者は学びや個人的成長、娯楽のために読書を推進する。候補者は子どもやヤングアダルトが読むものの動向を知り、多様なメディアで読むものを選んで、情報を得るためや娯楽のため、生涯学習のために読むことを支援する。候補者は多様な戦略で教室における読書指導を強化して、読者すべてのニーズや関心に対応する。

構成要素

2.1 文献

候補者は子どもやヤングアダルト、専門家のための幅広い文献について多様なメディアや言語で精通して、情報を得るためや娯楽のため、生涯学習のために読むことを支援する。

2.2 読書推進

候補者は多様な戦略で娯楽の読書を推進して読書が個人的に楽しいことを示して、創造的表現の習慣や生涯にわたる読書を推進する。

2.3 多様性の尊重

候補者は読書や調査のための素材を印刷物やデジタルメディアで構築して、高校までの生徒やその周囲の人々の多様な発達段階や文化、社会や言語といったニーズに対応することができることを実践して示す。

2.4 リテラシー戦略

候補者は教科教員と協働して幅広く読書指導戦略を推進し、高校までの生徒に文章から意味を見いだすことがきちんとできるようにする。

基準 2 の点検項目表

容認できない水準

次のことを候補者ができることを示す証拠が点検によって全然あるいはほとんど確認できない。

- ・文献を使いながら読むことを推進したり支援したりする
- ・読者すべてのニーズに対応する読書指導やコレクションの構築を方向付ける

容認できる水準

候補者が次のことをできることが少なくとも1つの点検の証拠として示される。

- ・子どもやヤングアダルトが多様なメディアで幅広い読書の素材を使って読むことを推進して、情報のためや娯楽のため、生涯学習のために読むことを奨励

This document is translated and published with permission by the American Association of School Librarians (AASL). Any further distribution or publication of this translation requires permission by the AASL (aasl@ala.org).

する

- ・教育者と協働して教室における読書指導を強化して、多様な読書戦略を使って高校までの生徒が文章から意味を見いだす能力を向上させる
- ・読書する素材となるコレクションを作りあげ、娯楽のための読書を推進し、読者すべてのニーズや関心に対応できるようにする

目標とすべき水準

複数の点検で、候補者が次のことをできる証拠が示される。

- ・子どもやヤングアダルト、教育専門職が上質で関心の高い文献を読むことを推進するが、その文献は印刷物とデジタルメディアとで、発達段階や文化的背景、社会的背景や言語的背景において高校までの生徒とその周囲の人々の多様な側面を反映させたものである
- ・関心を引きつける正統的な指導戦略を使って教室における読書指導を強化し、生涯学習を支え、高校までの生徒とその周囲の人々が文献を正当に理解して自己啓発や創造性に富んだ取り組みをできるようにする

基準2に関連する研究

21世紀の学びの基盤となるスキルとして、リテラシーと読書に学校図書館員は焦点を当てる。Krashen(2004)が発表した調査では、読書という行為そのものが読書スキルとリテラシーを向上させる主要な手段である。自由で自発的な読書という、リテラシーを最も効果的に向上させる手法に必要なのは、幅広い種類の読書の素材が多様な形式で手に入れられることである(Krashen, 2004)。読書における学校図書館員の役割の一部としてAASL(2009)が明示したのは、学校図書館員が子どもやヤングアダルトのための上質な読書の素材を多様な形式で「深く理解」していなければならないということである。さらには、学校図書館員は学習者に対して情報や娯楽、自己啓発のために興味を引く素材を多様に提供しなければならないし、教職員に対して仕事に関連する素材を提供しなければならない。

若い人たちが読むよう動機づけるには、Trelease(2006)が強調したように、読書を楽しむ体験となるよう読者の関心に対応する素材を備えることが

重要である。このことから必要なのが多様で幅広いコレクションを備えることである。そうすることによって、発達段階や文化的、社会的、言語的ニーズや関心において多様な読者に応えることができるのである。Lanceら(2005)が見いだしたのは、冊数や幅広さと同様に古くなっていないことが大切であることである。新しい資料の多い図書館のほうが、生徒の読書レベルが向上するのである。

訓練した学校図書館専門職がいることは、若い読者が読書好きになったり生涯学習者になったりすることを推進したり、導いたり、元気づけたりするうえで力強く影響する。AASL(2009)は学校図書館員に指示して生徒に音読してブックトークさせたが、それは読書推進の手法の1つとして、読書における役割の一部であるとした。米国教育省の読書委員会が確認したのは「読書において実際に成功するために必要な知識を作りあげるただ1つの最も大切な活動は子どもたちに音読すること」で、すべての学年で実践が続けられているのである(Andersonら, 1985)。さらには、調査が示唆するところでは、直接奨励することが実際の読書量に強く影響するとのことである。Morrow(1982)やShin(2004)が見いだしたのは、子ども達に読書を奨励することが読書を推進する確かな要素であるには、手に入れられる読書の素材が興味深く理解しやすくなければならないということである。

直接奨励するのと同様に重要なのは、公式、非公式に読書するモデルを示すことで読者に確かなメッセージを伝えることである。Trelease(2006)が明示したのは、読者を動機づける重要な要素の1つが、周囲の大切な人々が読書するモデルを示すことである。いくつかの研究で明らかになったのは、子ども達は人々が読書するのを見るときの方が読書することが多いということである(Krashen, 2004)。全体としては、生徒の多くが学校図書館に対して、読書に関心を持つことや読む本を見つけること、読書を向上させることやもっと楽しく読書することを助けてくれると考えている(Todd, 2005)

学校図書館員は読むスキルや理解力を向上させるためにも重要な役割を果たす。学校図書館は読書や読む過程を強化するうえで、学校図書館員が教科教員など専門職と協働することが最適である。いくつかの研究で明らかになったのは、学校図書館員が教科教員と協

This document is translated and published with permission by the American Association of School Librarians (AASL). Any further distribution or publication of this translation requires permission by the AASL (aasl@ala.org).

働いて読書指導するときに生徒の読むスキルが向上していることである(Lance et al., 1993; Lance et al., 2000; Roscello and Webster, 2002)。

参考文献

- American Association of School Librarians (AASL) (2009). *Empowering learners: Guidelines for school library media programs*. Chicago: Author.
- Anderson, R. C., Hiebert, E. H., Scott, J. A., & Wilkinson, I. A. G. (1985). *Becoming a nation of readers: The report of the Commission on Reading, U.S. Department of Education*. Champaign, IL: Center for the Study of Reading, University of Illinois at Urbana-Champaign.
- Krashen, S. D. (2004). *The power of reading: Insights from the research*. Westport, CT: Libraries Unlimited
- Klinger, D. (2006). *School libraries and student achievement in Ontario (Canada)*. Toronto, ON: Ontario Library Association.
- Lance, K. C., Rodney, M. J., & Hamilton-Pennell, C. (2005). *Powerful libraries make powerful learners: The Illinois study*. Canton, IL: Illinois School Library Media Association.
- Lance, K. C., Rodney, M. J., & Hamilton-Pennell, C. (2000). *How school librarians help kids achieve standards: The second Colorado study*. Spring, TX: Hi Willow Research and Publishing.
- Lance, K. C., Wellborn, L., & Hamilton-Pennell, C. (1993). *The impact of school library media centers on academic achievement*. Spring, TX: Hi Willow Research and Publishing.
- Morrow, L. (1982). Relationships between literature programs, library corner designs, and children's use of literature. *Journal of Educational Research*, 75, 339-344.
- Roscello, F., & Webster, P. (2002). *Characteristics of school library media programs and classroom collections: Talking points*. Albany, NY: Office of Elementary, Middle, Secondary, and Continuing Education, New York State Department of Education

This document is translated and published with permission by the American Association of School Librarians (AASL). Any further distribution or publication of this translation requires permission by the AASL (aasl@ala.org).

Department.

- Shin, F. (2004). Should we just tell them to read? The role of direct encouragement in promoting recreational reading. *Knowledge Quest*, 32(3), 47-48.
- Todd, R. J. (2005). *Report of the Delaware school library survey 2004*. Georgetown, DE: Governor's Task Force on School Libraries.
- Trelease, J. (2006). *The read-aloud handbook*. New York: Penguin Books.

基準3：情報と知識

候補者は、モノとして、デジタル情報として、そして仮想メディアとして情報資源のコレクションに倫理的で公平にアクセスするモデルを示して推進する。候補者は幅広い情報資源やサービスについて知っていることを実践することで示し、学びの共同体の多様なニーズを支援する。候補者は調査戦略を幅広く用いることを実践することで示して、実務を改善する知識を生み出す。

構成要素

3.1 効率的で倫理的な情報探索行動

候補者は多様な生徒の情報ニーズを認識して支援する。候補者は、生徒や教師、管理職が特定の目的のために情報を見つけて評価して倫理的に使うことができるよう複数の戦略モデルを示す。候補者は生徒や教師、管理職と協働して、情報を効率的に入手し、解釈して伝える。

3.2 情報の入手

候補者は、開かれた形で臨機応変に図書館サービスが使えるよう支援する。候補者は、情報資源やサービスを公平に使うことに対する物理的、社会的、知的障壁となるものに対処して解決策を展開する能力があることを実践することで示す。候補者は、印刷物や非印刷物、デジタルメディアといった様式で情報を入手しやすくする。候補者は、倫理的で法に則った専門職の行動規範のモデルを示して伝える。

3.3 情報テクノロジー

候補者は、今日的な学びの経験を立案してなじませる能力があることを実践することで示すが、その経験

はデジタル機器や情報資源を使ったもので生徒を正統的な学びに引きつけるものである。候補者はデジタル機器について最新のものや現れつつあるものを使って情報を見つけ出して分析し評価して使うことを効果的にするモデルを示し、他の人々が使いやすくして、デジタル社会における調査や学び、創造や伝達を支援する。

3.4 調査と知識の創造

候補者は、根拠に基づく実地調査をしてデータを集める。候補者はデータを解釈して活用し、新たな知識を創造して共有し、学校図書館における実践を改善する。

基準3の点検項目表

容認できない水準

次のことを候補者ができることを示す証拠が点検によって全然あるいはほとんど確認できない。

- ・高校までの生徒や周囲の人々が効率的で倫理的な仕方
で情報を公平に入手することを支援するサービス
や指導を立案する

容認できる水準

候補者が次のことをできることが少なくとも1つの点検の証拠として示される。

- ・情報資源やサービスを使うときの障壁となっているものを減らすことで、多様な学校関係者が印刷物とデジタルメディアで情報資源を柔軟で公平に入手できるようにする
- ・教師と協働して指導方法を立案して実施することで、高校までの生徒が情報を倫理的で効率的に入手して評価して活用する能力を向上させる
- ・最新のものや現れつつあるものまでテクノロジーを指導に統合して、デジタル社会における探究学習や学び、情報の創造や伝達を支援する
- ・根拠に基づく実践方法を使って調査からデータを集めて解釈して活用して、学校図書館の実践を改善する

目標とすべき水準

複数の点検で、候補者が次のことをできる証拠が示される。

- ・学校関係者すべてと協働して公平で開かれた情報の入手ができるようにして、学校図書館の情報資源やサービスを使うときの物理的、社会的、知的障壁と

なっているものに対する解決策を展開する

- ・高校までの生徒や研修に参加する教師や管理職に対して、正統的な方法と今日の学ばせ方法での学びの経験を立案して実施することを通して、効率的で倫理的な情報探索行動のモデルを示して推進する
- ・高校までの生徒や周囲の人々が最新のものや現れつつあるものまで含めたテクノロジーを使って情報を入手することを増やすことで、情報を入手し、解釈して、伝達することを支援する
- ・幅広い調査戦略を使って、新たに情報を創造したり学校図書館における実践を改善したりする

基準3に関連する研究

基準3が焦点を当てる学校図書館員候補者の能力は、モノとして、デジタル情報として、そして仮想メディアとしての情報資源コレクションを倫理的で公平に入手して活用することを推進するというものである。Boelems(2007)は、学校図書館員ができればならないこととして「設備として伝統的、デジタル、そして仮想のものを備えた学校のなかの場所を管理して、教師や児童が新しい種類の情報を入手できるようにする」ことを挙げている(p.67)。このように、学校図書館員にとって、伝統的な情報資源の普及を推進することと同様に新しい情報提供方法のモデルを示して普及を推進することにも挑戦することが最重要なのである。

学校図書館員は多様な学生が公平に情報を入手できるよう常に挑戦してきたのであるが、今日の挑戦は手ごわい(Simpson, 2003)。新しい情報機器を利用できないのは、単にデジタル・デバイド(Haycock & Sheldon, 2007)であるだけでなく、情報格差でもあるのである。学校図書館員は、生徒や教員など学びの環境をともしにする人々すべてに対して、情報を入手するときに知的、物理的、そして経済的な障壁となっているものをどんなものでもすべてなくすようしっかり仕事をしなければならない。根拠に基づく実践的研究では、公平に入手することの重要性について知ることを推進して共有することが学校図書館員にできるものとしている(Martin & Tallman, 2001; Howard & Eckhardt, 2006)。

学校図書館員はまた、多様な生徒の情報ニーズを見極めて支援していく必要がある。自分だけでこのニーズに応えることはできない。学校図書館員は教

This document is translated and published with permission by the American Association of School Librarians (AASL). Any further distribution or publication of this translation requires permission by the AASL (aasl@ala.org).

師と協働して生徒すべてのニーズに応えられなければならない。Hoover(2006)は、教科教員と協働する一方で、協力的な学びに生徒を引きつける手法を述べている。Kuhlthau, Maniotes, and Caspari(2007)は、「誘導的な探究学習」を「学校図書館員と教師の指導チームによって立案・誘導される、統合されて一体となった探究学習」(p.1)としている。統合したり協働したりして初めて、生徒の多様なニーズに応えられるのである。

ソーシャル・ネットワーキングやブログ、ウィキやショートメッセージ、携帯メールはインターネットと同様に膨大な量の情報をすばやく提供する。調査では、生徒が経験豊富な研究者でないことが示されている(Scott & O'Sullivan, 2005)。Kuhlthau, Maniotes, and Caspari(2007)が描写した過程では、カリキュラム内容と情報リテラシーの概念が統合して今日的な意味を持つ学びを創造している。生徒が多様なメディアで向き合わなければならない大量の情報を評価できるようになってほしいなら、情報リテラシーのスキルは不可欠である。Hamilton(2007)が述べているように「私たちは専門職として重大な局面にあり、この機会をしっかりとつかんで学びの共同体の人々と協働して、率先して情報リテラシーを解釈して教授する必要があるのである」(p.52)。

どのような研究課題でも、倫理的な調査と文献照合をしなければならない。生徒の多くは調査のスキルがないだけでなく、剽窃を悪いと思っていない(Johnson, 2003)。Butler(2007)が強調したのは、著作権を教えることの重要性についてである。しかし、Johnson(2003)が指摘したのは、倫理的な研究方法を教えるには学校図書館員が教師を基本研究資料以上のところへ駆り立てる必要があるということである。学校図書館員は、入手した情報を使って課題を解決することを強調する必要があるのである。このようなスキルを身につけることで、生徒は情報リテラシーのスキルを身につけて 21 世紀に立ち向かうのである。

さらには、学校図書館員はしっかり仕事をして、実務を向上させて学校図書館プログラムを効果的にする証拠となるものを集めなければならない。Todd(2003)によると、学校図書館員は、学校図書館プログラムやサービスが生徒の学びに対していかに

影響力があるかを文献で示さなければならない。Todd の主張では「証拠を集めることで、図書館員が生徒の達成度に貢献したり、重要な態度や価値観の形成に関わったり、自尊心の形成に関わったり、より効果的な学びの環境の構築に関わったりすることにいかに死活的な役割を果たすことができるかはつきり示すのである」(p.54)。Geitygey and Tepe(2007)はデータを集めて発表することの重要性を強調し、根拠に基づく実践を展開することで学校図書館員が「図書館サービスの継続的な改善」に向けて働くことができるとしている(p.10)。

参考文献

- Boelens, H. (2007). Knowledge management in secondary schools and the role of the school librarian. *School Libraries Worldwide*, 13(2), 63-72.
- Butler, R. P. (2007). Borrowing media from around the world: School libraries and copyright law. *School Libraries Worldwide*, 13(2), 73-81.
- Geitygey, G. A. & Tepe, A. E. (2007). Can you find the evidence-based practice in your school library? *Library Media Connection* 25(6), 10-12.
- Hamilton, B. J. (2007). Transforming information literacy for NowGen students. *Knowledge Quest*, 37(2), 48-53.
- Haycock, K., & Sheldon, B. E. (2008). *The portable MLIS: Insights from the experts*. Westport, CT: Libraries Unlimited.
- Hoover, C. (2006). Research-based instructional strategies. *School Libraries Activities Monthly*, 22(8), 2608.
- Howard, J., & Eckhardt, S. (2006). Leadership, action research, and the school librarian. *Colorado Libraries*, 32(4), 61-2.
- Johnson, D. (2003). *Learning right from wrong in the digital age: An ethics guide for parents, teacher, librarians and others who care about computer-using young people*. Worthington, OH: Linworth Publishing.
- Kuhlthau, C. C., Maniotes, L. K., & Caspari, A. K.

This document is translated and published with permission by the American Association of School Librarians (AASL). Any further distribution or publication of this translation requires permission by the AASL (aasl@ala.org).

- (2007). *Guided inquiry: Learning in the 21st century*. Westport, CT: Libraries Unlimited.
- Martin, J., & Tallman, J. (2001). The teacher-librarian as action researcher. *Teacher Librarian*, 29(2), 8-10.
- Simpson, C. (2003). *Ethics in school librarianship*. Worthington, OH: Linworth Press.
- Scott, T. J. & O'Sullivan, M. K., (2005). Analyzing student search strategies: Making a case for integrating information literacy skills into the curriculum. *Teacher Librarian*, 33(1), 21-5.
- Todd, R. J. (2003). Irrefutable evidence: How to prove you boost student achievement. *School Library Journal*, 49(4), 52-54.

基準4： 支持活動とリーダーシップ

候補者は大胆な学校図書館プログラムと積極的な学習環境を支持するが、それらは生徒の学びや成果に焦点を当てたもので、教師や管理職、図書館員や関係者と協働したり連携したりすることでなされる。候補者は学びの継続と研修に尽力し、教育者の研修活動を先導する。候補者は、学校図書館が生徒の成果に貢献する方法を明らかにすることでリーダーシップを発揮する。

構成要素

4.1 図書館関係者との連携

候補者は、他の図書館との連携関係を築いたり図書館員との協力関係を強めたりして、情報資源を共有したりネットワークを作ったり情報を入手しやすくしたりする。候補者は学習者の社会的・知的ネットワークに参加したり協働したりする。

4.2 研修

候補者は専門職としての意識を強く持つモデルを示して、図書館協会等に参加して専門職としての成長やリーダーシップを身につける機会に参加し、関連諸会議に出席し、専門誌を読み、ネットワーク情報資源を探索する。候補者は継続的な専門職としての成長を計画する。

4.3 リーダーシップ

This document is translated and published with permission by the American Association of School Librarians (AASL). Any further distribution or publication of this translation requires permission by the AASL (aasl@ala.org).

候補者は、そのときの教育関連の取り組みを踏まえたうえで、生徒の学習成果に強く影響を与えるために学校図書館プログラムが果たす役割や関連性についてははっきりと示すことができる。根拠に基づく実践例や教育・図書館調査から得られた知見を用いて、図書館プログラムが学校の改善に向けた取り組みを推進させる方法を候補者は伝えることができる。

4.4 支持活動

候補者は学校内外から、学校図書館プログラムに大きく影響を与えられる人々を見つけ出す。候補者は、学校図書館・情報プログラムや情報資源、諸サービスを支持する計画を立案する。

基準4の点検項目表

容認できない水準

次のことを候補者ができることを示す証拠が点検によって全然あるいはほとんど確認できない。

- ・学校や地域のなかで学校図書館プログラムを積極的かつ生産的に方向付けたり支持したりする

容認できる水準

候補者が次のことをできることが少なくとも1つの点検の証拠として示される。

- ・学校図書館プログラムが生徒の成果に大きな影響を与えるために果たす役割をはっきり示すことによって、大胆な学校図書館プログラムを支持して積極的な学習環境を築く
- ・研修活動を展開して、生徒や教育者、周囲の関係者のための学校図書館プログラムや情報資源、諸サービスの認知度を高める
- ・学校図書館員や情報専門職、諸機関と連携して、情報資源共有や情報入手を推進するために協力する取り組みを確立する
- ・職能団体の重要性をはっきり示して、継続的な研修を立案する

目標とすべき水準

複数の点検で、候補者が次のことをできる証拠が示される。

- ・研修の機会を立案して先導して、学校図書館の情報資源や諸サービス、諸活動が生徒の学業成果に強く影響することをはっきり示して、力強い学校図書館プログラムを支持する
- ・教育や情報の関連諸団体で活発に貢献して、学校図

書館の先進事例を紹介する機関誌や諸会合、オンラインでの研修を活用して社会的・知的ネットワークに参加する

- ・調査など根拠に基づいたデータや情報を使って、学校の改善への取り組みや研修計画に貢献したり先導したりする

基準4に関連する研究

生徒や学びを取り巻く学校図書館支持活動は自然なつながりに含まれている(Logan, 2008)。Loganによると、研究に次ぐ研究から、学校図書館は教育目標を達成する手段として良好な学校に共通して見られる。根拠に基づく実践をすることで、学校図書館専門職には強固な基盤があり、そのために意志決定者が生徒の手助けとなるよう学校図書館を充実させて改善させるのである。

他の専門職や新しい考え方、ツール類を活用して専門職の職務を果たすことは、学校図書館員が専門職として成長するために必要である。こういった活動に参加することは、生徒や教師にも機会を提供することになる。学校図書館の人々は、生徒の手助けとなるよう図書館プログラムを協働して改善する取り組みのなかで有望なパートナーを教育しなければならないのかもしれない。Bush(2007)が述べるように、私たちは「良い仕事を正しい場所すべてですることによって、それを自分たちが続けられるようにする傾向」がある。支持活動には、図書館や図書館員が学業と社会の両面できかに生徒の手助けとなるかを学校関係者に知ってもらう側面もあるのである。図書館に関連して人々が協働したりネットワークを築いたりすることは、すべての関係者を励ますことになるのである。Hartzel(1999)が述べるところでは「図書館支持活動は、図書館サービスを効果的にするのに不可欠であるが、場所によっては図書館を存続させるために不可欠なのである」。

Hand(2008)によれば「教室計画で図書館と情報資源を統合させるよう継続的に支持することに、私たち学校図書館専門職すべてが焦点を定め続けなければならないのである」。Morris(2004)が強調するのは「教師に使ってもらう最良の方法は、一人ずつ個別に留意したり職業的関心を持ったりすることであり、そうすることで教師が教材を集めて整理して授業をする手助けとなったり協働して支援してより良い教師にしたりすることである」(p.127)。『The Library Advocate's

Handbook』(American Library Association, 2006)は図書館を支持することについてかけがえのない支えとなってくれるものであり、この取り組みで使うことのできる協働に向けたツール類を重視している。

参考文献

- Boelens, H. (2007). Knowledge management in secondary schools and the role of the school librarian. *School Libraries Worldwide*, 13(2), 63-72.
- Butler, R. P. (2007). Borrowing media from around the world: School libraries and copyright law. *School Libraries Worldwide*, 13(2), 73-81.
- Geitgey, G. A. & Tepe, A. E. (2007). Can you find the evidence-based practice in your school library? *Library Media Connection* 25(6), 10-12.
- Hamilton, B. J. (2007). Transforming information literacy for NowGen students. *Knowledge Quest*, 37(2), 48-53.
- Haycock, K., & Sheldon, B. E. (2008). *The portable MLIS: Insights from the experts*. Westport, CT: Libraries Unlimited.
- Hoover, C. (2006). Research-based instructional strategies. *School Libraries Activities Monthly*, 22(8), 2608.
- Howard, J., & Eckhardt, S. (2006). Leadership, action research, and the school librarian. *Colorado Libraries*, 32(4), 61-2.
- Johnson, D. (2003). *Learning right from wrong in the digital age: An ethics guide for parents, teacher, librarians and others who care about computer-using young people*. Worthington, OH: Linworth Publishing.
- Kuhlthau, C. C., Maniotes, L. K., & Caspari, A. K. (2007). *Guided inquiry: Learning in the 21st century*. Westport, CT: Libraries Unlimited.
- Martin, J., & Tallman, J. (2001). The teacher-librarian as action researcher. *Teacher Librarian*, 29(2), 8-10.

基準5： プログラム管理と運営

This document is translated and published with permission by the American Association of School Librarians (AASL). Any further distribution or publication of this translation requires permission by the AASL (aasl@ala.org).

候補者は学校図書館プログラムや情報資源、諸サービスを計画、展開、運営、評価する。一連の活動は、図書館学や教育、管理や運営の倫理や原則に則ったものであり、学校における図書館プログラムの使命を支えるものである。

構成要素

5.1 コレクション

候補者は専門の選書ツールや評価規準を使って、印刷物や非印刷物、デジタル情報資源を評価して選ぶ。そうすることで、生徒や教師、管理職の持つカリキュラムや個人的なもの、職業に関するものにおいて多様に対応するような構成で質の良いコレクションにすることができるのである。候補者は現行の目録規則や分類法といった原則や基準に則って整理する。

5.2 職業倫理

候補者は専門職としての倫理的原則を実践し、知的自由とプライバシーを支持し、デジタル環境下の市民権とそれに伴う責任について推進してモデルを示す。候補者は情報やアイデアを倫理的に使うことを学校関係者に教える。

5.3 人事、予算獲得、施設

候補者は、人材や情報資源、設備や備品について計画し、予算獲得し、評価するときに最良の実践を適用する。候補者は図書館施設を整理して、情報資源や諸サービスの利便性を高めたり、利用者すべてが情報資源すべてを公平に入手できるようにしたりする。候補者は方針と手順を作りあげ、実行し、評価して、学校図書館における教授と学びを支援する。

5.4 戦略的な立案と点検

候補者は生徒や教師、管理職や地域の人々と意見交換し、協働して学校図書館プログラムを作りあげるが、そのプログラムでは情報資源と諸サービス、諸基準が学校の使命と調整されている。候補者はデータと情報を効果的に使って、図書館プログラムが関係者の多様なニーズにどのように対応しているか点検する。

基準5の点検項目表

容認できない水準

次のことを候補者ができることを示す証拠が点検によって全然あるいはほとんど確認できない。

- ・情報資源や諸サービス、プログラムを管理して、高

校までの生徒の多様なニーズに対応する

- ・専門職としての倫理の原則や基準を認めて理解する
容認できる水準

候補者が次のことをできることが少なくとも1つの点検の証拠として示される。

- ・印刷物や非印刷物、デジタル情報といった学校図書館コレクションを評価・管理・整理して、教授や学びという学校の使命を支援する
- ・専門的職務やプログラムに関する決定をするとき、現行の基準や倫理規定、教育や情報の専門職の原則に基づく
- ・図書館のコレクションや方針、手順を作りあげ、管理し、整理することで、学校図書館の情報資源や諸サービスが自由に使えるようにする
- ・データや情報を使って、いかに学校図書館プログラムが高校までの生徒や周囲の人々の多様なニーズに応えるかを評価して伝える

目標とすべき水準

複数の点検で、候補者が次のことをできる証拠が示される。

- ・情報資源や諸サービス、方針や手順、プログラムを伴った強固な学校図書館プログラムを立案し、運営し、推進することで、学校の使命に沿って、専門職としての倫理の原則や現行の基準にかなうようにする
- ・知的自由や知的財産権、プライバシーに対する権利に関するデジタル環境下の市民権に伴う責務を明確に表現してモデルを示す
- ・印刷物や非印刷物、デジタル情報といったコレクションを利用できるようにするが、そのコレクションは指導することを支援して向上させるものであり、高校までの生徒や周囲の人々の多様なニーズや関心を反映するものである
- ・学校図書館の物理的な資源（設備・備品）や財政的な資源（予算）、人的な資源（人事）を管理し、整理し、評価することで、学校図書館プログラムが関係者すべてのカリキュラムや個人的な関心、職務に関連する関心を認識し、賞賛して、支援するようにする

基準5に関連する研究

Empowering learners: Guidelines for school

This document is translated and published with permission by the American Association of School Librarians (AASL). Any further distribution or publication of this translation requires permission by the AASL (aasl@ala.org).

library programs(2009)でアメリカ・スクール・ライブラリアン協会が一連のガイドラインを作ったときの信念は「学校図書館メディア・プログラムがしなければならないのは、柔軟な学びの環境を作ることに焦点を当てること」とともに「生徒が批判的に考えることができたり、情熱を傾けて読むことができたり、巧みに調査できたり、情報を倫理的に使うことができたりするようにすることである」(p.5)。基準5が焦点を当てているのは、候補者のスキルとして、学びの環境を作ることができる一方で、組織のなかでリーダーシップや管理能力を発揮できることである。

Lincoln(2009)が記すように、倫理的な振る舞いを生徒に教えてモデルを示すには、調査や教員との継続的な交流が必要である。情報を電子的に入手することは、教育界に懸念を多くもたらした。学校図書館員は情報を使う人々のなかで知的財産権を推進することを先導する。

物理的な学びの環境を作るとき、学校図書館員は方針と手順を作りあげたうえで、人や情報、物理的情報資源を立案し、予算をつけ、評価する。Rosenfeld and Loertscher(2007)が示唆するのは「学校図書館は四面の壁を越えて存在して、現実と仮想で適切な質の良い情報資源を365日24時間休みなく提供するのである」(p. vii)。Johnson(2003)が記すように、図書館は「ハイテク」と同時に「ハイタッチ」でなければならず、そうすることで利用者は必要な情報を歓迎される環境で見つけることができるのである(p.387)。Wools(2004)が固く信じるのは、学校図書館員は与えられた場所だけで満足する必要はなく、「図書館メディア施設を点検して改善する」ことが学びの環境の重要な一部であることを知る必要があるということである(p.117)。

このことは戦略的な立案と点検につながる。Neelameghan(2007)が考えたのは、図書館情報資源の管理を考えた場合の生徒の成果と質の良い図書館プログラムが与える強い影響についてである。図書館プログラムを立案して点検することを通して、生徒は学びやすくなるのである。

参考文献

American Association of School Librarians
(AASL) (2009). *Empowering learners*:

This document is translated and published with permission by the American Association of School Librarians (AASL). Any further distribution or publication of this translation requires permission by the AASL (aasl@ala.org).

Guidelines for school library media programs.
Chicago: Author.

Johnson, D. (2003). Are libraries (and librarians) heading toward extinction? *Teacher Librarian* 31(2), 24-27.

Lincoln, M. (2009). Ethical behavior in the information age. *Knowledge Quest*, 37(5), 34-37.

Neelameghan, A. (2007). Knowledge management in schools and the role of the school library media center. *Information Studies*, 1(1), 5-22.

Rosenfeld, E., & Loertscher, D. V. (Eds.). (2007). *Toward a 21st century school library media program*. Lanham, MD: Scarecrow.

Wools, B. (2004). *The school library media manager* (3rd ed.). Westport, CT: Libraries Unlimited.

原典：

http://www.ala.org/aasl/sites/ala.org.aasl/files/content/aasleducation/schoollibrary/2010_standards_and_items_with_statements_of_scope.pdf (2014.6.30 確認)